

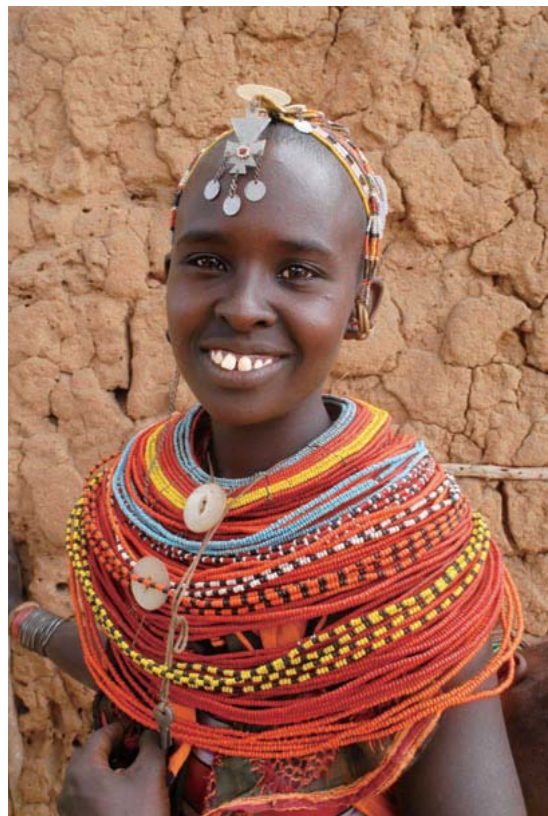
Kenya

【ケニア】

文・写真＝久野武志 (カメラマン)

トウルカナ 悠久の大地





トウルカナ族の女性。少女のような笑みを見せたが、立派な一児の母親だ

「ウオオー、ウオオー！」
鳥と風の音しか聞こえない、どこまでも続くサバンナに、男たちの雄たけびがこだまする。古タイヤで作られたサンダルで大地を蹴ると、長身の体が一瞬間に浮いたかのように、ひらりと舞った。やりを掲げ、跳躍を繰り返すその姿は、今を生きる喜びを全身で表しているかのようだ。さあ、トウルカナ族伝統の結婚式が始まる。

重ねたネックレスを首に巻き、歌い、踊りながら喜ばしきこの瞬間を分かち合う。ステップのたびにひざに付けられた手製の鈴が鳴り響き、砂埃がもうもうと舞う。誰もが汗まみれ、埃まみれだ。ドスツという鋭く鈍い音に振り向くと、やりの一撃でヤギが屠られていた。その奥では長老たちに囲まれながら、今日の主人公である婿ピーター・ロカテ(43)がまゆひとつ動かさず、神妙な表情で鎮座していた。

「今回娶る娘は3人目の妻だ。結婚式と結納金(牛などの家畜を含む)は多額なもので、複数の妻を持つのは無論大変だが、子孫を増やし民族を繁栄させるために大切なことだ」。鋭い眼を据えて、ピーターは語った。

皆でリズムを刻みながら、歌い踊る。ひざに手製の鈴を付けている者もいる



つえややりを掲げて跳躍し、雄たけびを上げながら式場に移る若者たち



C



D



A



B

- A. 男女が向かい合って歌う歌には、お互いを祝福し、民族の発展を願う言葉がちりばめられている
- B. 祝いの牛が屠られ、皆で運ぶ。婿はこの日のために牛1頭、ヤギ7頭を客人に振る舞う
- C. 屠った牛の生き血は牛乳と砂糖を混ぜて飲む。レバーペーストに似た、濃く力強い味である
- D. 車座になって肉が焼けるのを待つ。木の葉を皿代わりにして、祝いの食事を分かち合う

G.地酒「ブサ」を作る婦人。原料はトウモロコシの粉やアワで、やや酸味があり、アルコール度数は低い
H.携帯電話はサバンナの地域でも広まっている
I.夕方、トウルカナ湖に漁に出る男たち。気候の厳しいこの地域において、湖は人々の支えになっている



薪拾いに出る少年。村周辺には薪にする木がなく、生活を助けるため子どもも遠くまで歩いて薪を探す



しかしこの地方では2008年より干ばつが激しく、多くの人々が家畜を、時に家族を失ってきた。日常の食事さえもままならないこともある。「干ばつは神の怒りか、世界中のものなのか」。長老の一人が聞く。「この干ばつのせいで、我々の伝統も危機にある。若者は街の生活にあこがれて、土地と伝統を捨てる。水も食料もある生活は楽だろう。我々の生きる土地は確かに厳しい。しかし先祖代々から受け継がれた生き方と土地を捨てることは、我々が何者であるかを自らの手で遺棄することになる。それは

断じてならんことだ」
静かな怒りを込めて語る長老の腰には、ヤギの革で留められた携帯電話が見える。固定電話と違い、アンテナを一基建てるだけでサバンナでも通信が可能になる携帯電話もまた、この地の慣習を何かしら変えていくのかもしれない。
夜のとばりが降りるまで、祝いの声と踊りは続けられた。夕暮れに染まる彼らの顔は、悠久の昔から伝わる独自の伝統に生きる誇りにあふれているようだった。それはきっと干ばつも、近代化をも凌駕するものだろう。



E.薪を拾い、家に戻ってきた
F.トウルカナ族伝統の家屋。家の中には生活に最低限必要なものしか置かず、水と牧草地を求めて、時に移動する





理数科教育研修を受ける
アフリカ諸国の研修
員たち



地熱発電所の建設が予定されているオルカ
リア地区



洪水対策が行われて
いるニヤンド川流域

JICAの活動 in ケニア

中所得国への 成長の後押しを

2030年までの中所得国入りを目指して、堅調な成長を続けるケニア。経済成長率10%の維持を達成するため、JICAはさまざまな開発手法を効果的に活用した支援を続けている。

著しい経済成長の恩恵を受け、アフリカ大陸の成長をけん引するケニア。2007年12月の大統領選挙を受けて発生した騒乱では1,000人以上が犠牲になり、一時は経済成長率も1.7%にまで落ち込んだ。しかし現在は、政治的・社会的にも徐々に安定を取り戻し、順調な経済回復が見込まれている。

08年には国家戦略として「ケニアビジョン2030」を発表。2030年までに中所得国入りすることを目標に掲げ、経済成長率10%の維持、衛生的かつ安全な環境下での生活の保障、国民の人権・自由を守るため民主政治の確立などを目指している。

これを受けJICAは、経済インフラ整備、農業開発、人材育成、保健医療、環境保全の5つの分野を重点課題と

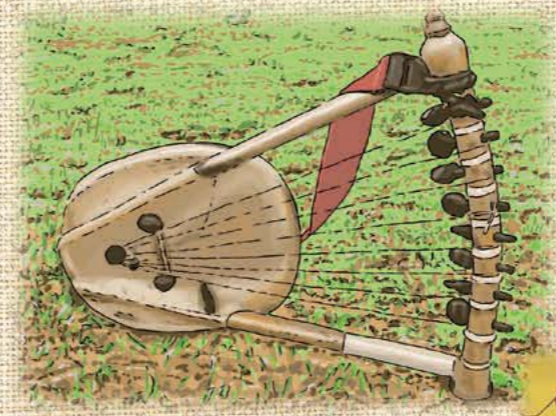
して設定。「ケニアビジョン2030」と「第4回アフリカ開発会議(TICAD IV)」の議論の内容を踏まえ、技術協力、有償資金協力、無償資金協力を有効活用しながら包括的な支援を進めている。

教育分野では1998年から中等教育で行ってきた理数科教育分野での協力を初等教育にも拡大。09年に「理数科教育強化計画」を開始し、現職教員の研修などを通じて、理数科教育の質向上、指導者の育成を図っている。また、同様の課題を抱える他のアフリカ諸国への普及も重要であるとし、01年に設立された「アフリカ理数科教育域内連携ネットワーク」を通じて、教員育成の振興や教員研修制度の構築などに関する技術交流・研修を

行っている。

また、近年深刻化する気候変動により多発している洪水被害に対応すべく、西部のニヤンザ州のニヤンド川流域で洪水対策を支援。06～08年の開発調査では、コミュニティ単位の洪水管理組織を設立したり、防災教育などを行った。また、その調査内容を踏まえ、無償資金協力を通じて井戸や避難所、排水溝などを建設している。

さらに現在、サハラ以南アフリカ諸国初となる気候変動対策円借款「オルカリアI 4・5号機地熱発電計画」を実施している。近年、増大する電力需要に対応するとともに、天候に左右される水力発電への依存脱却を図るべく、新たに地熱発電所を建設することで安定的な電力供給を行う。



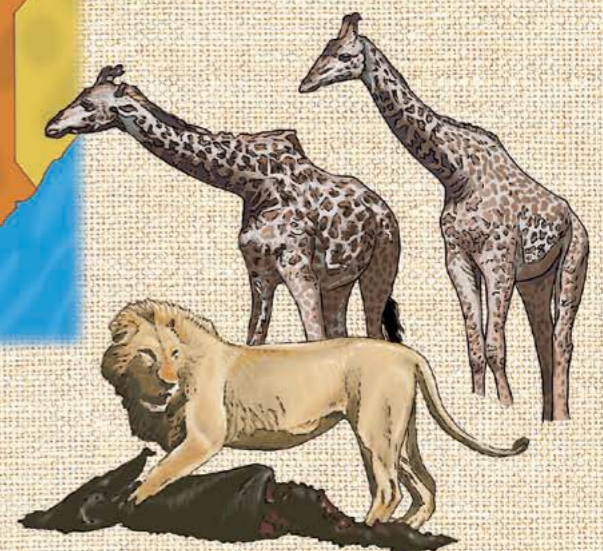
西部ルオハの伝統楽器ニヤティティ。別称カンバナネ(スワヒリ語で8本の弦)とも呼ばれ、男性のみが弾くことを評される。



アフリカ最大のスラム、キベラ。首都ナイロビ郊外に位置し、100万人以上が生活する。



首都：ナイロビ
面積：58.3km²(日本の約1.5倍)
人口：3,980万人(2009年)
公用語：スワヒリ語、英語
宗教：伝統宗教、キリスト教、イスラム教
1人当たり国民総所得(GNI)：760ドル(09年)
経路：日本からの直行便はなく、ヨーロッパや中東経由が一般的。
通貨：ケニア・シリング(KES) 1KES=約0.99円(2011年1月現在)
気候：沿岸部は温暖で湿潤、中央部のハイランド地区は冷涼で湿潤、北部・東部は高温で乾燥している。雨期(4～6月、10～11月)と乾期(12～3月、7～9月)に分かれる。



タンザニア国境沿いにあるマサイマラ国立保護区はアフリカ唯一の多種多様な動物の生息地。サファリツアーは外国人観光客にも人気。

バラやカーネーションなど、切り花産業が盛ん。1年を通じて、ヨーロッパを中心に輸出されている。



ケニアの市場では、クンデガ山盛りな野菜が売られている
編集協力：JICAケニア事務所 進藤むつみ

- ☆コーンが柔らかすぎるとつぶれてしまいそうな場合には、コーンのみ後から加える。
1. コーン、グリーンピースをそれぞれやわらかくゆでてザルにあげる。
 2. ジャガイモは皮をむき四ツ切りにしてゆでる。ゆで上がる直前にカボチャの葉(またはホウレンソウ)を加える。
 3. 2の葉がやわらかくなったら火を止め、水分を切る。
 4. 1と3を混ぜ合わせ、塩、コショウ、バターを適宜加え、全体が緑色になるようにマッシュする。

「イリオ」
【材料(4人前)】
コーン1カップ/グリーンピース1カップ/ジャガイモ8個/カボチャの葉(またはホウレンソウ)の粗みじん切り2カップ/塩、コショウ、バター適宜
【作り方】

ケニアには40以上の民族が存在するといわれ、それぞれが異なった言語や文化を持っている。しかし最近では、民間の文化の壁が少しずつ低くなり、食文化についても、地域的な特性はあるものの、ほぼ全国的に似たものが食べられるようになってきている。

ゆでたジャガイモをつぶした「イリオ」もその一つ。元来は、国内で最大勢力を占めるキクユ族の食べ物だった。ゆでたメイズ(トウモロコシ)や豆を、ジャガイモと混ぜてつぶしたシンプルでヘルシーな料理。カボチャの葉を加えることで全体が薄緑色になるのが特徴だ。付け合わせとして、葉もの野菜やトマトを使ったサラダなどとお皿に盛ると、彩りがとても美しい。

葉もの野菜にもさまざまな種類があるが、中でも伝統的なものの一つがクンデ。アフリカが原産といわれるカウピース(さざげ)という豆の一種。豆部分のみならず、やわらかい葉の部分も食用とされる。

ケニア料理 アフリカ版マッシュポテト 「イリオ」

